

京都大学CFプロジェクト奨学金 よくある質問と回答 (Q&A)

質 問	回 答
CFプロジェクト奨学金は返済が必要ですか。	返済不要の給付型奨学金です。
独立生計について	原則、父母等の収入で申請してください。ただし、父母等の年収より本人及び配偶者の年収が上回る場合は、別途、奨学掛までご相談ください。
早期卒業について	申請可能です。ただし、卒業できない結果となった場合は速やかに申し出てください。その場合は採用内定者であっても対象外となります。
留学中ですが申請できますか。	留学中でも申請は可能です。ただし、留学状況（在籍状況や期間）について奨学掛までお知らせください。場合によっては、申請できないこともあるのでご了承ください。
リサーチフェロー（RF）ですが、CFプロジェクト奨学金も申請していいですか。	申請可能です。
法科大学院学生へ既修者として2年次に入学しましたが、専門職学位課程1年次在籍者として申請してよいですか。	申請可能です。採用になった場合は、2年次および3年次の支給となります。
成績基準を教えてください。	「募集要項」の学業基準をご確認ください。
標準修得単位数について教えてください。	標準修得単位数とは、卒業必要単位数を最短修業年限で修得できることが可能と予想される現学年時点の単位数とご理解ください。
Web登録の入力を間違えました。修正方法を教えてください。	Web登録を確定すると、ご自身ではシステム上での変更はできません。印刷した申込書の訂正箇所に直接赤で2重線を引き、署名か捺印のうえ、正しい情報を赤でご記入ください。
書類提出は郵送でも可能ですか。	可能です。書類提出期間中必着です。個別の受取連絡はしておりませんので、簡易書留などをご利用ください。
書類提出期間中に書類の用意が間に合いません。	原則、提出期間中に不備なく書類を提出してください。ただし、期日に間に合わない書類がある場合は、一度奨学掛へご相談ください。
専業主婦でも課税証明書は必要ですか。	必要です。
課税証明書を提出したら源泉徴収票や確定申告書などは不要ですか。	審査項目が異なりますのでどちらも提出が必要です。
年収は、どの金額を入力すれば良いですか。	課税証明書ではなく、源泉徴収票や給与明細、振込通知書、確定申告等をもとに給与、年金は支払金額（控除前）、営業は所得金額（経費等を引いた後）を入力してください。
最近、家計支持者が退職しました。	予約採用は申請年度の11月から1年間、在学採用は申請年度の5月から1年間の収入見込みを審査します。予約採用11/1、在学採用5/1より前に退職される分の証明書は不要です。失業手当、年金等を受給される場合は証明書類を、無収入となる場合は「無職・無収入にかかる申立書」を提出してください。

京都大学CFプロジェクト奨学金 よくある質問と回答 (Q&A)

1/1日時点で海外に住民票があったため、課税証明書などが発行されません。	「海外にいたことがわかる書類（氏名・滞在場所・海外滞在期間等が記載）のコピー」と「事情書（様式自由・該当者名/海外にいたため提出できない書類名を明記）」をご提出ください。
通帳のコピーの提出が必要ですが、通帳がありません。	Web通帳の場合は、キャッシュカードの写しではなく、Webの口座情報の画面を印刷（スクリーンショットでも可）して提出してください。
CFプロジェクト奨学金申込書が印刷できません。	Web登録期間が終了したら、申込書が印刷できません。入力後、Web登録期間内に速やかに印刷してください。
採用でも不採用でも結果通知はありますか。	結果を問わず、メール（KUMOIアドレス宛）にて通知を行います。
予約採用で申請して不採用だった場合、在学採用でも申請できますか？	申請可能です。
休学（休止）した場合、休止期間分は支援が延長されますか。	支援期間内において復学しなかったときは受給資格を失います。また、休学（休止）によって支援が延長されることはありません。
支援休止とならない留学とはどのようなものですか。	国費留学・国、地方公共団体からの助成による留学・私費留学・語学研修・総長がこれらの事由と同等以上の事由があると特に認めた場合は支援休止となりません。
休学時（休止中）の適格認定（学業）について、どの段階で審査されますか。	学業基準については休学期間を考慮し個別に判断します。
留学時の適格認定（学業）について、どのように審査されますか。	学業基準については留学後、単位互換申請にて本学の単位と認められた単位及び留学時の学修状況も考慮し個別に判断します。

＊ ＊問い合わせ先 ＊ ＊

教育推進・学生支援部 学生課奨学掛

[Mail:840scholarship@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:840scholarship@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)